



金目川水系流域ネットワーク

世話人会

せせらぎ通信

7月末までの活動計画のお知らせ

(皆様の参加をお待ちいたしております)

1. 金目川支流・座禅川の源流 駒ヶ滝、芳盛寺・土屋の自然めぐり

6月15日(土) 朝9時

場所 金目川中流の支流 座禅川

集合 神奈中バス停土屋橋のたもと ファミリーマートへ

- 座禅川の源流は八沢、その一つの駒ヶ滝、ホタル飛び交う自然豊かな地です。
- 芳盛寺、源頼朝の旗揚げに参陣した、土屋三郎宗遠の菩提寺。
- 座禅川沿いをゆったりと自然観察いたします。

2. 夏休み生きもの観察会

7月21日(日)

集合 金目ふれあい広場 朝9時30分

場所 金目川 金目観音堂前の川

- 金目川の生きものを網でとって観察します。
- 東海大学・神奈川県環境科学センターの協力をいただいています。
- 金目小学校・みずほ小学校を対象に行っています。



金目川 水源 春嶽山の勢い



金目川土手のキチョウ

3. 真夏の水温調査

8月11日(日) 午後1時~

場所 金目川水系流域

- 金目川水系の橋、66か所を調査地点として行います。
- 真夏の一番暑い日の高温時間帯です。
- アユの生息に適した水温かどうかを調査しています。

4. ひらつか環境フェア2013

7月28日(日)

集合 OSC湘南シティ オリンピック 朝10時

場所 ひらつかOSC湘南シティ オリンピック オープンモール

- テーマ「自然にふれて楽しく学ぼう」
- 参加体験コーナーで「つれるかなーザリガニくん」
- 他の団体もたくさん、楽しいことを実施しています。



金目川 吾妻橋上流にて投網

金目川の水循環の解明から、 世界の水循環を 描き出す挑戦

西岡 哲

1. 金目川から世界の水循環へ —産学官連携ジャーナルの紹介

私の金目川水系流域ネットワークへの参加は2000年に28年間勤めていた建設会社を辞め、水循環シミュレーション技術をコア技術として水資源・環境・災害に関する情報提供するベンチャー企業を立ち上げ、地元の平塚でも貢献できることはないかと市の広報誌を見て、東海大学で開催される「金目川フォーラム」に参加したのがきっかけです。

水問題とは、生活圏の水資源・水環境・水災害に関わる問題であり、人間が生活し、文明を発展させていくために常に対処すべきものです。

地球表面には、水が相変化(液・気・固)し、水圏(海洋)、気圏(大気)、地圏(陸域とその近縁の気圏・水圏)をめぐる水文大循環があります。水循環シミュレーションとは、図に示した地圏における水などの動態を捉える技術です。

地圏には、土壌・岩石圏、自然の動植物が創り出す生態系、人間活動が創り出した人工物があり、その中を大気圏からもたらされた降水が蒸発散・河川流れ・地下浸透流・湧出流などとして移動し、最終的に海洋に回帰します。

人間や生物の活動は、大気と地盤を切れ目なく循環する水の恵みにより成り立っています。自然を意識しなくとも生きていけるようになった現代社会が持続的に発展していくた

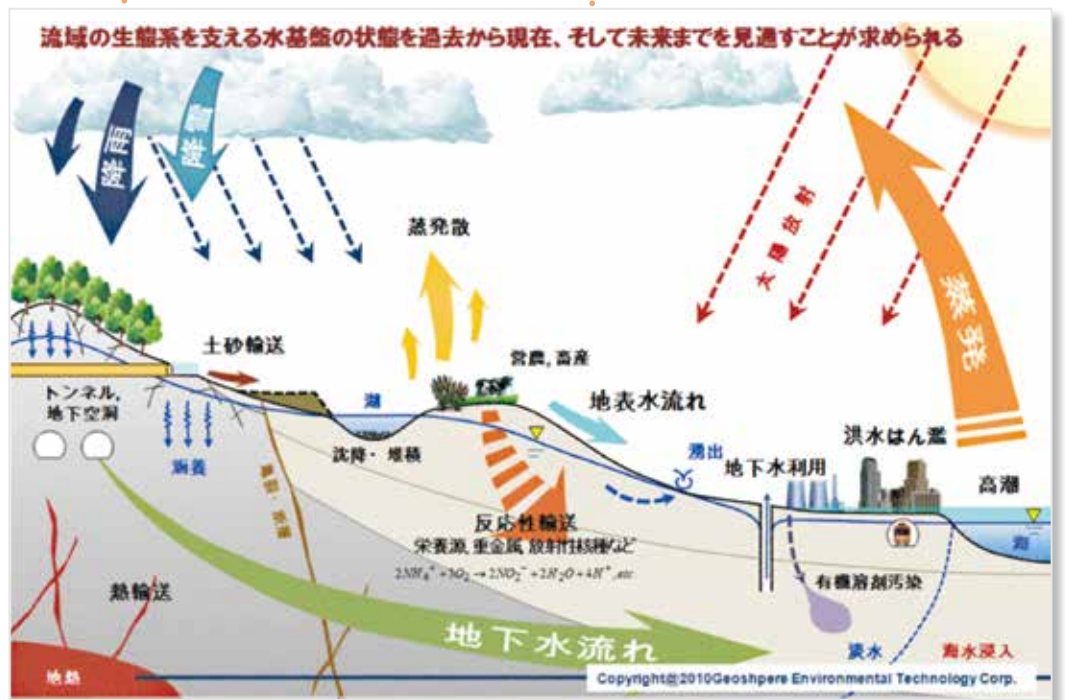
めには、人間活動がこの水循環に対してどのような影響を与えているのかを知り、修復不可能になるまで過度な利用をしないように管理することが重要です。

金目川流域を行政だけでなく、市民参加型で水循環を把握し環境保全活動ができないものでしょうか？

金目川の水循環モデルのモチベーションは、水循環はどうなっているのかを可視化し、みんなが理解することにより高まります。

すでに金目川の水循環モデルについては、横浜国立大学佐土原研究室の依頼で構築した神奈川拡大流域圏モデルや、秦野市の依頼で構築している秦野盆地の水資源環境管理のための秦野モデルなどが構築されてきていて、(下へ)

地下水は、地下の地質構造や地表の土地利用、水利用の影響を受けながら流動しています。地下水の流れを知るうえで最も重要なことは、地下の地質構造を正確に知ることです。平塚市立博物館の森慎一さんは、長年にわたる調査研究により平塚の地盤構造を明らかにしてきていますので、秦野モデルと統合した金目川全流域の水循環モデルの構築が可能です。(下へ)



金目川の地表水、地下水が四季を通してどのように流動しているのかが明らかになりつつあります。

まず自分が住んでいる平塚を流れる金目川の実態を知り、世界の水循環を描き出すのが夢です。このことが、科学技術振興機構の産学官連携ジャーナル4月号 単発記事 [世界の水循環を描き出す東大発ベンチャーの挑戦](#)に掲載されましたので紹介します。

詳しくは以下のサイトをご覧ください。

http://sangakukan.jp/journal/journal_contents/2013/04/articles/1304-07/1304-07_article.html

(次号につづく)

故郷は近きにありて

詩集「花水川物語 2」を出版して

府川 清

花水川のほとりに住んでいる私は七年前、詩集「花水川物語」を出しました。

そろそろ続編を出そうと思ひ、友人の協力を得て、書きためた数十篇から三三篇を選んでまとめました。

①現在の様子、②子どもの頃の体験、③周辺の歴史、という三つの章で構成しました。

五月九日の「タウンニュース・平塚版」にも写真付きで紹介されましたが、難しい表現は使わず、普段使っている言葉で、様々な事柄をわかりやすく切り取り、読み手に情景をリアルに伝える事にこだわって書いています。

花水川の良さをみんなに知らせたい。

川と暮らしを見つめ直したい。

そんな内容が溢れた詩集に仕上げたい。という思いが、みなさんに伝わればうれしいです。私にとって、花水川とその周辺は、生まれ育った大切な故郷。今も暮らしている所です。

農家の次男に生まれ、サラリーマンになり、都市化で農業ができなくなったため親の残した田畑を相続した兄弟六人で相談。これを生かし不動産管理をしながらの年金暮らしです。

花水川は、子どもの時から泳いだり、釣りをし

たり、網で取ったりして、遊んだ川ですが、成長とともに川は汚れ、魚がいなくなったり、遊べなくなったりの悲しい出来事が続きました。

みんなの努力、行政の対策で、今はかなり改善され、桜が咲く頃になると若アユが海から上ってきます。

秋には卵を産み一生を終わりますが、孵化した子鮎が海へ下っていきます。渡り鳥も渡ってきます。だいぶ前からカワセミが花水橋からも姿が見えるようにもなり、増えていきます。大変うれしいことです。

でも、魚も昔ほどではありません。水もまだ臭いので泳げる川に戻っていません。そのうえ、川は危ないところだと、大人からも敬遠されています。残念です。

むかしは、川が「遊びにおいで…」と子ども達を呼んでくれました。小川は地下の下水となり、舗装道路が上を通っています。そんな暮らしになりましたが、里川・花水川（金目川）を子ども達にも受け入れられる川にしたいものです。

そんな夢を持って、年三回のニュースに掲載されている「金目川水系流域ネットワーク」の様々な取り組みに参加している私です。

詩集「花水川物語 2」を読みたい方がいらっしやいましたら、ご一報ください。

☎ 0463・34・7475



カワセミ 絵 岩本 勲

3月10日、金目川水系流域ネットワーク主催の

花水川(金目川下流)清掃に参加しました。

複数の団体が参加され、お名前とお顔が一致する方はごく僅かですが、この日の目的は「川をきれいにしよう!」です。

軍手と長べつ姿に、「ゴミはさみ」と「ゴミ袋をそれぞれの手に準備し、平塚市側と湘南平側の2グループに分かれスタートしました。

私が担当した湘南平側はサイクリング道路が整備され、ウォーキングや犬の散歩を楽しむ方が私たちに声を掛けてくれます。

川岸では以前、河川補修などに用いられた土のうの袋が破れ、役目を終え異物として目につき、ドロドロのボロボロになった土のうの袋を、ずるずると川岸から掘り出すには結構力がいるものです。

歩道近くには常連の空き缶やタバコの吸い殻、飴の小袋など。タバコの吸い殻は時間が経過しても自然には戻らないようです。

それでも以前と比べると吸い殻ごみの量はだいぶ減ったように思います。飴の小袋、お菓子の空き袋、コンビニ袋等、さまざまプラスチック製品が目につきます。捨てられたものが風で舞ってきたのか、或いは故意に手の届かないような草の生い茂る中に捨てられたのか。からだをいっばいにのびし、長いゴミはさみを駆使し、普段、歩いて

いるだけでは目につかないような場所のゴミも拾います。

川岸と歩道の間、普段は人が歩かないようなところにはいろいろなものが捨ててあります。食器戸棚などに使われていた割れたガラス、木材の残骸、季節を終えた鉢植えの残骸。誰の迷惑にもならないだろうくらいで捨てたのか、誰の目にも触れないだろうくらいで捨てたのか。人間以外に、猫や犬はこんなものは捨てません。とても残念です。川をきれいに保つことは、海をきれいにすることにもつながります。勿論、その前には山の手入れも欠かせません。

この日はとても風が強く、中国から飛来した黄砂により、いつも見える大山が見えませんでした。環境に国境はないのだな、と感じました。

佐藤貴子 4月14日記載



「湘南里川づくり」取組みのご紹介! ～ いせはら環境展に出展しました!～

“湘南里川(さとがわ)づくり”

とは、湘南地域のふるさとの川である金目川水系の河川等を、次世代を担う子どもたちに引き継いでいくため、市民主体による清掃、植栽、生き物観察会などの河川等の保全・活用を、流域全体に広げていく取組みです。

生き物と触れ合うことで子供に里川への関心を持ってもらい、また、会の活動の啓発を行うため、『第10回いせはら環境展』に出展いたしました。

当日は、チラシ等の配布による「湘南里川づくり」のPRのほか、金目川水系の生き物とのふれあい体験及び、エコゲームによる啓発を実施し、多くの家族連れでにぎわいました。

●日 時 2013年5月11日(土)

●実施内容 金目川水系の生き物とのふれあい体験、資料配布やエコゲームによる啓発活動



湘南里川づくりに一緒に取り組む
「湘南里川見守り隊」を募集しています。
詳細は、ホームページで!

里川づくり

検索



●お問い合わせ先

湘南里川づくりみんなの会事務局

神奈川県湘南地域県政総合センター 企画調整課

電話 (0463) 22-9186 (ダイヤルイン)

ホームページアドレス <http://www.satokawa.com/>